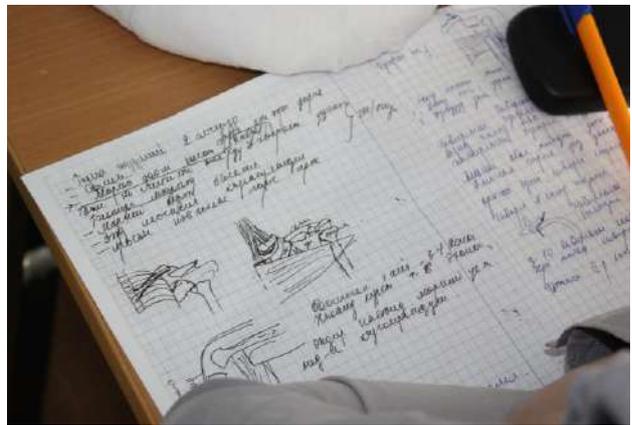


# 日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト 最終報告書



**Traditional Japanese Medical Treatment (Judo Therapy Techniques) Instructors Training and Diffusion Project**  
日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト



**UNITE THE POWER TO LEAP TO THE WORLD**



*The spreading of Japanese traditional medical treatment.  
The spreading of practical medical treatment in a no-doctor area.  
Promotion of traditional medicine and nurture of youth via sports.  
An offer of technique for an allied athlete.*

**日本柔道整復師会**  
JAPAN JUDO THERAPIST ASSOCIATION

## ご挨拶



在モンゴル日本国大使館  
特命全権大使 清水 武則

日本柔道整復師会のモンゴルでの活動は2005年以来、10年に亘って続けられていますが、モンゴル国立医療科学大やJICAの協力のもと非常に成功裏に実施されてきたことに対し、お慶びを申し上げます。

日本柔道整復師会は、このプロジェクトの他にもモンゴル国柔道ナショナルチームのトレーナー活動などを通じて両国の友好に寄与しており、長年日本とモンゴルの関係発展に尽力してきたものとして、また日本政府を代表する大使として、心から敬意を表したいと思います。

皆様ご存じの通り、昨年は安倍総理が歴代総理として初めて在任中に2度目のモンゴル訪問を行った他、日本とモンゴルとの間で経済連携協定（EPA）に署名がなされる等、両国の関係は極めて高いレベルで発展しています。あらゆる分野で積極的に協力が実施されている中で、モンゴルで未だに発展が遅れている医療分野における協力は、極めて重要な意義を有すると考えます。

柔道整復は、世界保健機関（WHO）に伝統医療として紹介された実績のある日本古来の医術であり、特に未だ医療設備も十分でないモンゴルにおいて、現地調達可能な資機材を使用して骨折・脱臼等の治療を行うことができるという点で、右の普及は両国間の大変有効な協力となるものと考えます。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることとなり、日本政府としても「SPORT FOR TOMORROW」によるスポーツ分野における国際貢献を推進していますが、モンゴルで育成された柔道整復師が、日本の柔道整復師とともに、世界中の人々が集う東京オリンピックの場で優れた技術を駆使して選手たちを支え、協力するといったシーンもあるのではないかと期待しています。

最後になりましたが、本プロジェクトの実行に尽力されてきた方々に敬意を表すると共に、モンゴルにおける柔道整復術の更なる普及を心より念願しております。

# ご挨拶



モンゴル JICA 事務所  
所長 佐藤 睦

モンゴルでは、近年道路の整備や車両の普及による交通事故をはじめとする、事故・外傷による死亡が増加しております。実際、外傷は循環器疾患や悪性新生物に次ぎ、死亡原因の第3位を占めており、交通事故についてはモンゴル国内においても社会問題として広く認識されているのは言うまでもありません。

これに対し、医療インフラの未整備や地方の医師の外傷に対する初期治療の知識や技術が十分でなく、結果として障害が残ってしまうというケースも後を絶ちません。こうした中、高価な医療機器を用いることなく治療を行うことを可能とする日本の柔道整復術のモンゴルでの導入と普及拡大を目指し、「モンゴル国内における柔道整復術の指導・普及がモンゴル人のみにより可能となる状態になる」というプロジェクト目標を掲げ、2011年9月に本事業が開始されました。

これまで、5名のモンゴル人柔道整復師指導者が育成され、ウランバートル・ゴビアルタイ・ホブド・ドルノゴビ・アルハンガイの5つの地域での医療従事者を対象とした講習会を通じ、柔道整復術習得に向けた技術指導が広く行われました。また、本事業のカウンターパートでもあるモンゴル医科大学と共同し、柔道整復術におけるテキストが作成され、看護学部の外傷学の一環として柔道整復術に係る講義も実施されました。さらに、これまでの本事業での活動が評価され、2016年9月以降には医科大学に新たに柔道整復術に係る学科の創設も検討されているとのことで、更なる事業効果の拡大が期待されます。

こうした一連の高い事業成果は、日本柔道整復師会の講師の皆様のご努力に加え、モンゴル側関係者の強いオーナーシップによるものであり、改めて敬意を表します。

この度本事業の終了に際し、関係者の皆様方のご支援に深く御礼申し上げますとともに、本事業を通じた日本・モンゴルの更なる発展と友好関係が進展致しますことを心より祈念致します。

# ご挨拶



公益社団法人 日本柔道整復師会  
会長 工藤 鉄男

2006年より、日本国の外務省 NGO 連携無償資金協力により ODA（政府開発援助）として、モンゴル国における日本伝統治療（柔道整復術）普及プロジェクトがスタートしました。2009年より JICA（国際協力機構）支援型、2011年からはパートナー型として実施し、本年年8月31日にて終了いたしました。

振り返れば、これまで本当に大勢の方々のご協力をいただいてここまで来ることができましたが、このプロジェクトが10年にも及ぶ事業になったのかを考えますと、柔道整復術には柔道の名前がついて「道」が入っています。どんな分野でも道を究めるために協力し合っていく、この道を究める中で出会った人たちを「道縁」というそうです。道の縁という言い方をするそうです。この道を究めるために知り合った人は、村や町、国を越え、文化を越え、宗教をも越えられるといわれています。

まさに、両国の関係者がともに柔道整復術を普及していく中で、出会った道縁を大切にしてきたからです。そして、どれだけ高度な医療であっても、機器・検査・投薬に偏り過ぎたデジタルで温かみの薄れた現行の医療ではなく、人の温もりと触れ合い話し合い、人の手で行う技術が、モンゴル国の伝統文化ならびに医療状況に日本伝統治療（柔道整復術）がマッチしていたからだと思います。

我々ができることには限界があります。同じ理想を描き、目的を持ち、“精力善用・自他共栄”という柔道の精神を貫くべき「道」から外れることなく、さらにモンゴル国で柔道整復術を未来へ繋げるためには、モンゴル国関係各位のあらゆる方向からの取り組みが必要です。貴国の発展と国民のために、是非、柔道整復術を活用していただき、真に定着することを祈念してご挨拶といたします。

# ご挨拶



モンゴル国立医科学大学  
理事長 Sambuu LAMBAA

モンゴル国立医科学大学および日本柔道整復師会が共同で実施したプロジェクトの修了は 10 年間の歴史を意味します。当プロジェクトはモンゴル各地に広がっただけではなく、日本国民にも知られたプロジェクトであると高く評価します。

長い歴史を持つ日本伝統治療（柔道整復術）を科学と融合させ発展させただけでなく、モンゴルの 3 都市、21 県、360 ソムの医師を指導し技術を習得させることにより、モンゴル国民の生活に貢献し、事故・外傷後の労働能力喪失・リハビリ・回復期間を短縮できたことが当プロジェクトの成果だと考えます。

現在、どこに行っても日本の柔道整復師・指導者が知られ、彼らの指導した方法で包帯を巻き、固定し、モンゴルの伝統的な方法と組み合わせ、整復をしているのは日本人指導者のおかげです。私は保健大臣、モンゴル国立医科大学理事長として 2009 年より今まで当プロジェクトを支援してきましたし、今後も引き続き支援してまいります。やるべきこともまだまだあります。

2013 年 12 月に東京にて、2014 年 2 月にモンゴルにて行われた工藤鉄男会長らとの会談・合意に基づき、2016 年リオオリンピック、2020 年の東京オリンピックの際に、大学病院の開院後も、協力・交流が続くと期待しています。

# ご挨拶



モンゴル国立医科学大学  
学長 BATBAATAR Gunchin

日本政府の草の根技術協力事業により、日本の柔道整復師会とモンゴル国立医科学大学が「日本伝統治療（柔道整復術）の普及・指導者育成」プロジェクトを 2006 年から 10 年間実施されました。当プロジェクトの実施により、モンゴルの医療サービスの質、特に受傷者に対する治療・サービスの対象範囲・質の向上に大きく貢献した日本柔道整復師会の皆様にモンゴル国立医科大学の教職員、学生を代表し、また個人的に心より感謝申し上げます。

日本柔道整復師会のプロジェクトチームは 2006 年からモンゴルを訪問し、最初は医科大学バイオメディカル学校スポーツ 医学専攻、卒後研修医、伝統医学部生に外傷治療・ケア研修を実施していましたが、2008 年から看護大学の准医師専攻卒業生を対象にしてきました。その結果、凡そ 600 名の学生が研修を受講しました。また、地方の外傷外科医および准医師を中心に指導したほか、全国で活躍が期待される 5 名の指導者を日本の大学や整骨院・外科病院に実習させ育成しました。

私が地方の分校を出張訪問する際に、具体的にはゴビアルタイ県、ダルハン県、ドルノゴビ県の現地指導を視察しました。日本伝統治療・柔道整復師会が実施する研修の特徴は、外傷を徒手的に診断し、整復術を用いて治療し、入手しやすい器材で包帯・固定するなど基本的な方法を、実習を中心に行い、現場で活用できるようになるまで指導していたのが印象的でした。

柔道整復術はモンゴルのような伝統的な遊牧文化を持ち人口密度が低く医療手当てを受けにくい遠隔地・地方に適している他、道路交通、産業、スポーツが発展しているなど、多様な要因により事故・外傷が多発する現在、サービスの質・対象範囲の向上や低コストで実現できる優良な手法です。

当プロジェクトが終了しても、モンゴルに柔道整復術のニーズがまだ高いため、我が大学は 2016 年の新学期から柔道整復術を組み込んだカリキュラムで新規専攻の学生を受け入れることになりました。

新規専攻を開設した理由はモンゴルにおける柔道整復術が普及し、多くの受傷者がその治療を受け健康になり、健康なモンゴル人、健康なモンゴル国を実現するのに大きく貢献するという大きな期待があるためです。プロジェクトが10年間継続して実施され、21県、3都市に研修を実施し、全県・市の医療従事者に教科書・ハンドブックを配布したなど数多くの成果があげられます。

その中で一番重要なのがモンゴルの医療分野にて物資的ではなく人材・原動力を育成し知的投資をしてくださったことだと思います。

最後になりますが、ご協力いただいた JICA、長い期間一生懸命で誠実なパートナーである日本柔道整復師会の皆様に改めて心より御礼申し上げます。

我々のパートナーシップが末永く続くと期待しています。

# プロジェクトの歴史

## 2006年～2008年

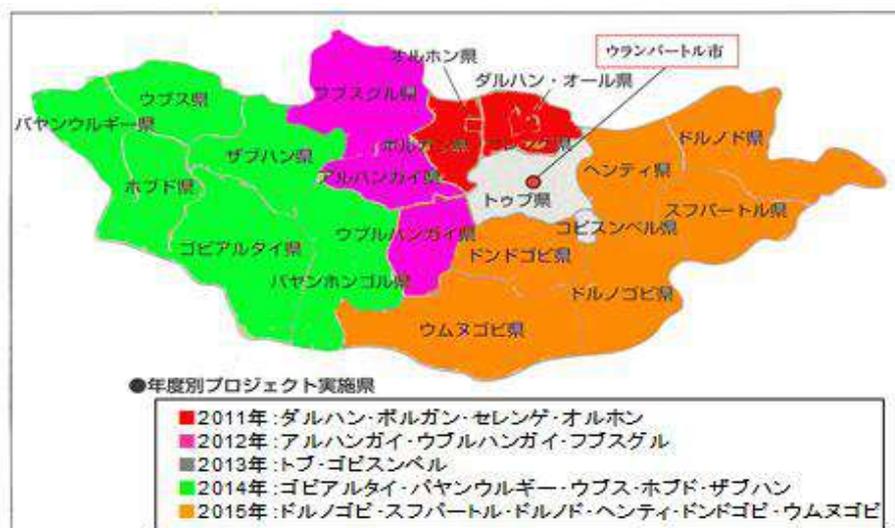
日本柔道整復師会が 2006 年から日本政府の ODA によりモンゴル各地の医療従事者を対象に柔道整復術の普及活動を行ってきました。2006 年にモンゴルオリンピック委員会、スポーツ委員会、モンゴル国立医科大学との協力協定を締結しました。同年 6 月からモンゴル国立医科大学卒業生を対象に卒後研修を開始しました。卒後研修と合わせ、モンゴル国立医科大学学生を対象に初期研修を実施しました。さらに、モンゴルオリンピック委員会の協力の下、ナードム際の相撲大会の時に医療手当てを行い、事故・外傷調査を行いました。

## 2008年から現在まで

2011 年から JICA（国際協力機構）の協力により、モンゴルの 21 県に柔道整復術を普及する 5 年間のプロジェクトを開始しました。

主な活動が地方の医療従事者、モンゴル国立医科大学看護大学の学生を対象に柔道整復術を指導しナショナル指導者を育成することです。

研修は近代的な機械がなくても手当てを行い、入手しやすい針金、新聞紙、タオルなどを用い実習をし、現場で活用できる点が特徴です。また、住民に対し、受傷した場合、放置せずに直ちに医療機関に行くことの重要性を訴えるための公開セミナーを実施しています。



# プロジェクトマトリックス

## 上位目標 (Overall Goal)

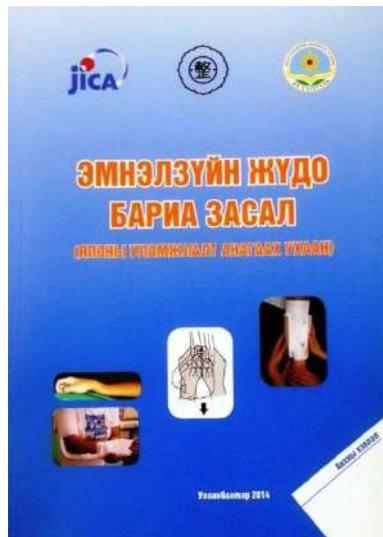
モンゴルの医療機関における事故・外傷の治療に柔道整復術が継続的に活用される。

## プロジェクトの目的 (Project Purpose)

モンゴル国内における柔道整復術の指導・普及がモンゴル人のみにより可能となる

## 期待される成果 (Output)

1. モンゴル国各地方において、医療従事者の外傷治療技術が向上する
2. モンゴル国立健康科学大学附属看護大学において、外傷学カリキュラムの中に、柔道整復術講義が組み込まれる
3. 柔道整復術のモンゴル人指導者が育成される
4. より専門性の高い柔道整復術テキストが、看護大学の授業で使われ、また、各医療機関において、柔道整復術ハンドブックが活用される
5. 外傷治療の必要性をモンゴル国民が認識する



柔道整復術テキスト



柔道整復術ハンドブック

# モンゴル人指導者育成

モンゴル人指導者の育成をモンゴル国だけでなく日本各地の医療機関ならび接・整骨院にて、5名の指導者候補に対して研修を行いました。また、モンゴル各県にて普及員とともに柔道整復術の普及するためのシステム作りを行いました。



日本研修先リスト

|        | 期 間                   | 研 修 先          | 研 修 員                                       |
|--------|-----------------------|----------------|---|
| 2011 年 | 10 月 29 日 ~ 11 月 19 日 | 栗原整形外科         | Altan-erdene<br>Tuvshinbayar<br>Nomintengis |
|        | 11 月 25 日 ~ 12 月 16 日 | 富永接骨院          | Altan-erdene<br>Tuvshinbayar<br>Nomintengis |
| 2012 年 | 6 月 13 日 ~ 7 月 11 日   | 栗原整形外科         | Tuvshinbayar                                |
|        |                       | 金森整骨院          | Darinchuluun                                |
|        |                       | 河村接骨院          | Bolortuya                                   |
|        | 7 月 13 日 ~ 8 月 9 日    | 野島鍼灸整骨院        | Tuvshinbayar                                |
|        |                       | 中杉通り整形外科       | Bolortuya                                   |
|        |                       | 上青木整形外科        | Darinchuluun                                |
|        | 10 月 25 日 ~ 11 月 17 日 | 大河原接骨院         | Nomintengis                                 |
|        |                       | 西山接骨院          | Altan-erdene                                |
|        | 11 月 21 日 ~ 12 月 15 日 | 中杉通り整形外科       | Nomintengis                                 |
|        |                       | 栗原整形外科         | Altan-erdene                                |
| 2013 年 | 6 月 13 日 ~ 7 月 11 日   | なみおせっこついでん     | Tuvshinbayar                                |
|        |                       | 市川整骨院          | Darinchuluun                                |
|        |                       | 美浦整骨院          | Bolortuya                                   |
|        | 7 月 16 日 ~ 8 月 8 日    | 栗原整形外科         | Tuvshinbayar                                |
|        |                       | 東京医科大学茨城医療センター | Darinchuluun<br>Bolortuya                   |
|        | 10 月 24 日 ~ 11 月 16 日 | サカイ接骨院         | Bolorchimeg                                 |
|        |                       | 北野接骨院          | Altan-erdene                                |
|        |                       | 牧接骨院           | Bolortuya                                   |
|        | 11 月 20 日 ~ 12 月 14 日 | 栗原整形外科         | Bolorchimeg                                 |
|        |                       | きよせ松山クリニック     | Bolortuya                                   |
| 鳥居整形外科 |                       | Altan-erdene   |   |

|        | 期 間                                       | 研 修 先                        | 研 修 員                                     |
|--------|---|------------------------------|---|
| 2014   | 6月11日～7月5日<br>6/11-14,19-21,26-28,7/3-7/5 | サカイ接骨院<br>富山大学               | Tuvshinbayar                              |
|        | 6月11日～6月17日                               | 今村整骨院                        | Darinchuluun<br>Bolorchimeg               |
|        | 6月30日～7月4日                                |                              | Darinchuluun<br>Bolorchimeg               |
|        | 6月18日～6月28日                               | 奈須接骨院                        | Darinchuluun                              |
|        |   | やわらぎ接骨院                      | Bolorchimeg                               |
|        | 7月8日～8月2日                                 | 栗原整形外科                       | Darinchuluun                              |
|        | 7月9日～8月2日                                 | 田淵整形外科クリニック                  | Tuvshinbayar                              |
|        |   | 佐藤整形外科クリニック                  | Bolorchimeg                               |
|        | 10月23日～11月15日                             | さとう接骨院                       | Bolorchimeg                               |
|        |   | 森川接骨院                        | Altan-erdene                              |
|        |   | 加藤接骨院                        | Darinchuluun                              |
|        | 11月19日～12月13日                             | 栗原整形外科                       | Bolorchimeg<br>Altan-erdene               |
| 古畑整形外科 |   | Darinchuluun                 |   |
| 2015年  | 6月6日～7月2日                                 | はなじり整骨院                      | Altan-erdene<br>Bolortuya<br>Tuvshinbayar |
|        |   | 工藤整骨院                        |   |
|        |   | いながき整骨院                      |   |
|        | 7月7日～8月1日                                 | 済生会小樽病院                      | Altan-erdene<br>Bolortuya<br>Tuvshinbayar |
|        | 10月21日～11月14日                             | 長尾接骨院                        | Altan-erdene<br>Bolortuya<br>Tuvshinbayar |
|        |   | 10/28、11/4、11/11<br>明治国際医療大学 |   |
|        | 11月17日～12月12日                             | 栗原整形外科                       |   |

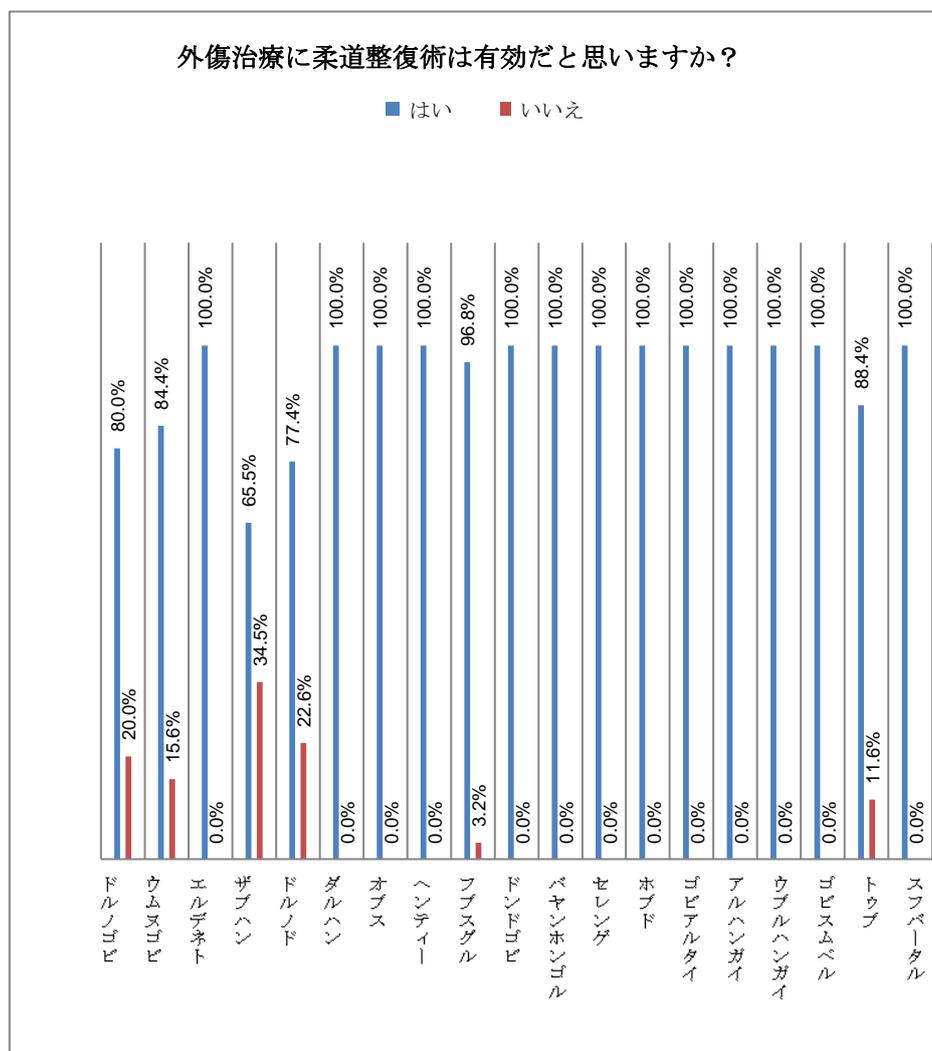
# アンケート調査

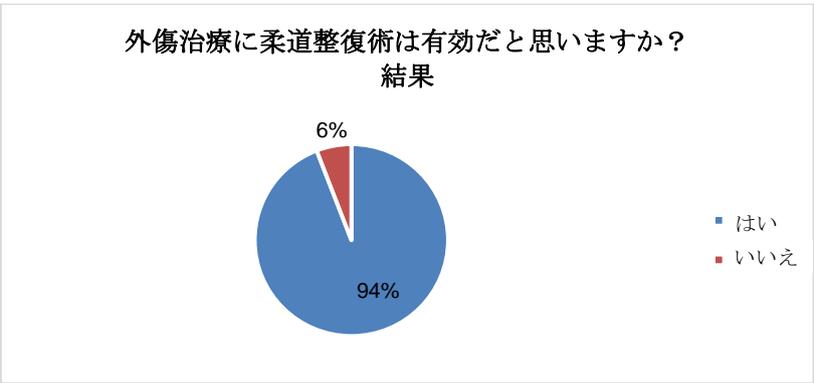
2016年6月、プロジェクト活動の評価のため21県にアンケート調査票を送付し、うち19の県から調査票を回収した。アンケートの集計結果を以下のグラフに示す。

アンケートに回答したのは、ドルノゴビ、ウムヌゴビ、エルデネット（オルホン）、ザブハン、ドルノド、ダルハンオール、オブス、ヘンティ、フブスグル、ドンドゴビ、バヤンホンゴル、セレンゲ、ホブド、ゴビアルタイ、アルハンガイ、ウブルハンガイ、ゴビスムベル、トゥブ、スフバートルの各県である。

アンケートに回答した県数：19

アンケートに参加した准医師数：1,029名





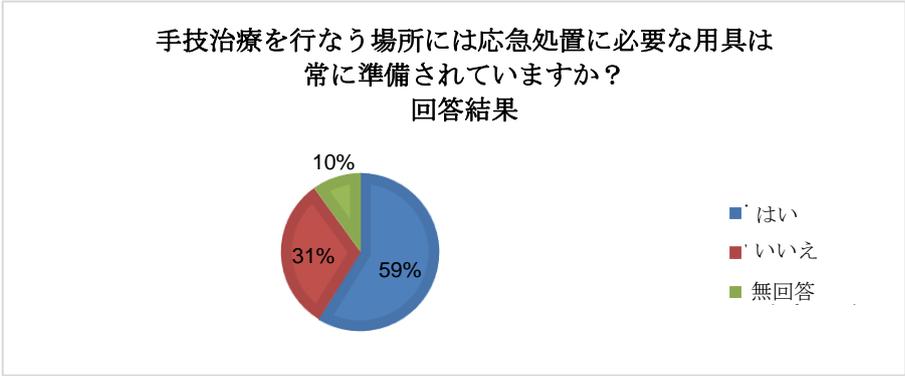
「外傷治療に柔道整復術は有効だと思いますか？」という質問に対し、**94%**が「はい」と答え、**6%**が「いいえ」と回答した。回答者全体の**94%**（**966名**）が「はい」と答えていることから、モンゴル国の地方部において柔道整復術の需要があることが分かる。

一方で、**6%**（**60名**）が「いいえ」と答えているのは、外科手術を優先しているか、あるいは既にバリアチと呼ばれる民間手技療法士がいる場合にはそれほど必要ではないと考えたものと推測される。

手技治療を行う場所には、応急処置に必要な用具が常に準備されているか？という質問に対し、**59%**が「はい」、**31%**が「いいえ」と回答し、無回答が**10%**であった。

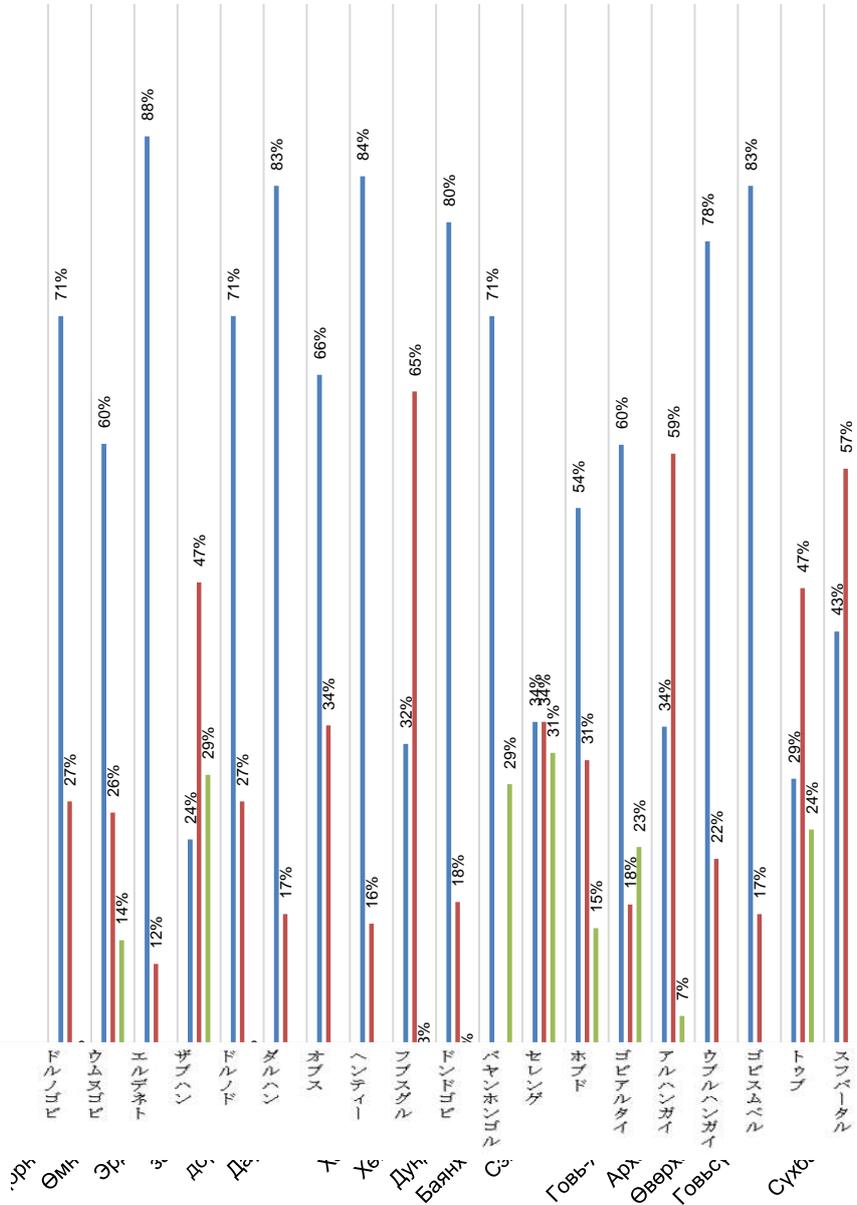
これによると、設備・資材の充実が図られ、常に準備がされているところは**60%**に満たず、これは留意すべき課題であることが分かる。

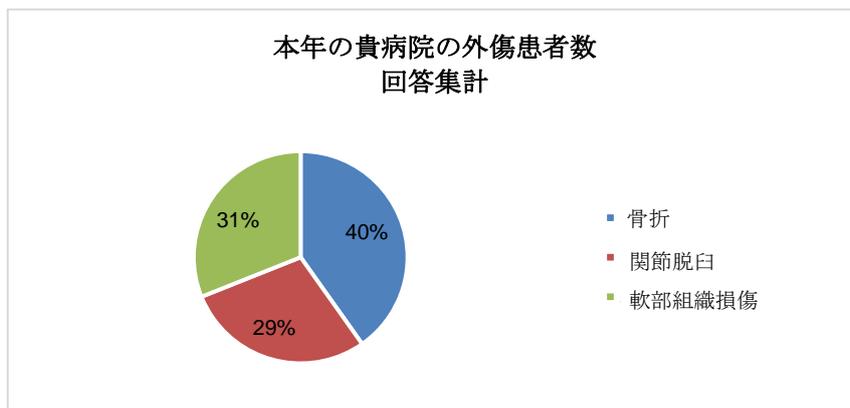
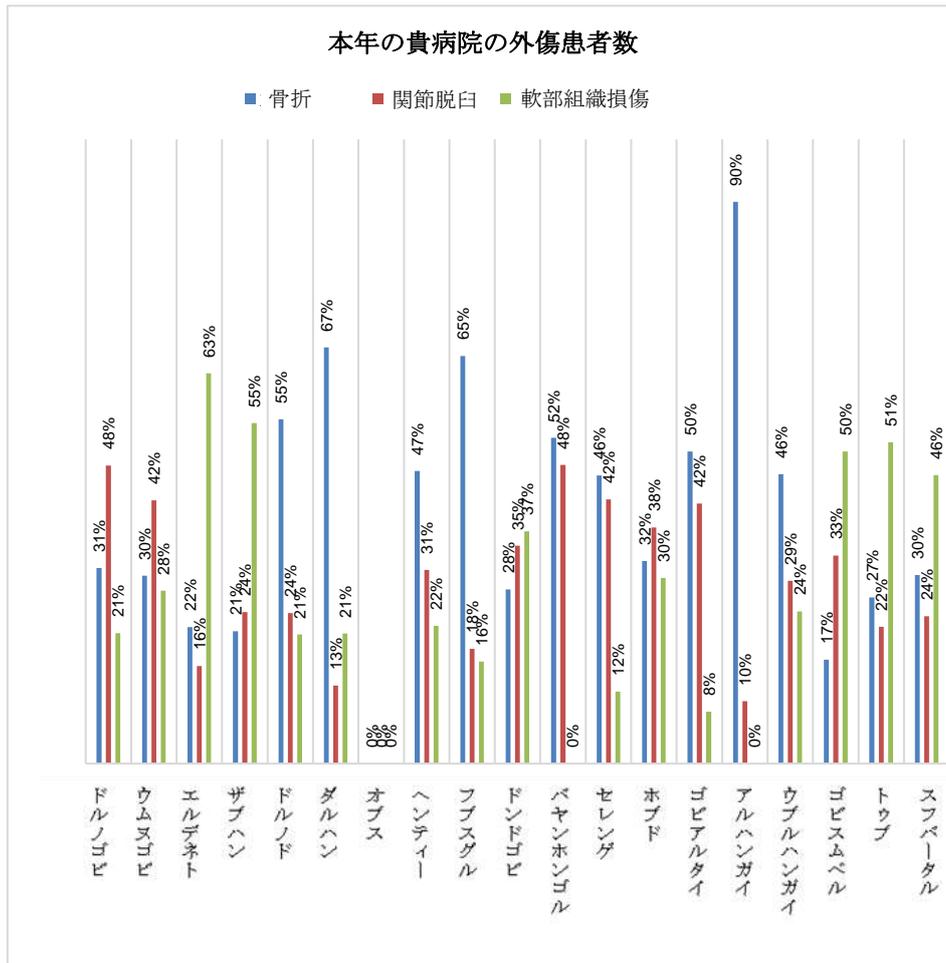
医療サービスには必要不可欠な用具というものがあり、どんな時でも応急処置に必要な用具が揃っていることが重要である。



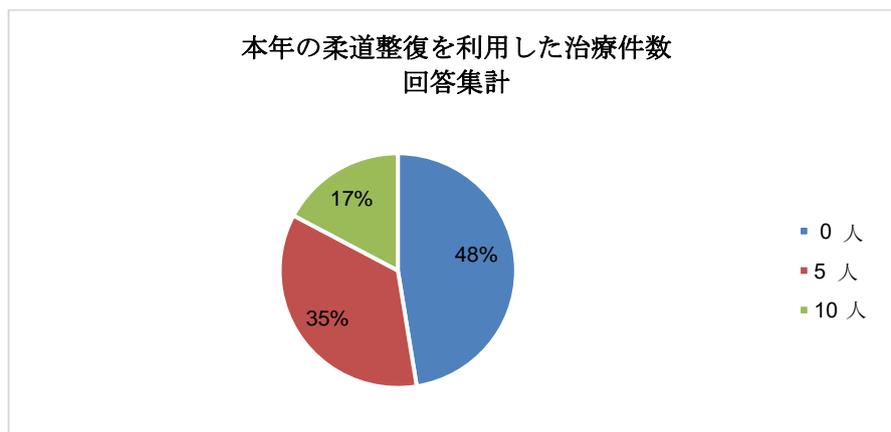
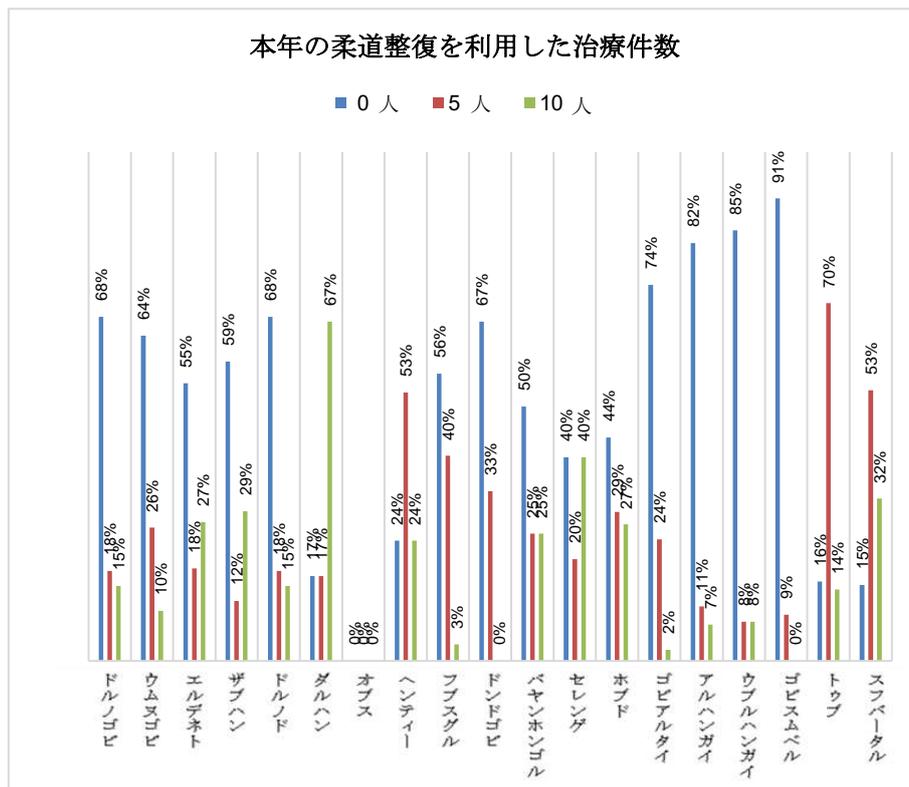
# 手技治療を行なう場所には応急処置に必要な用具は いつも準備されていますか？

■ はい ■ いいえ ■ 無回答



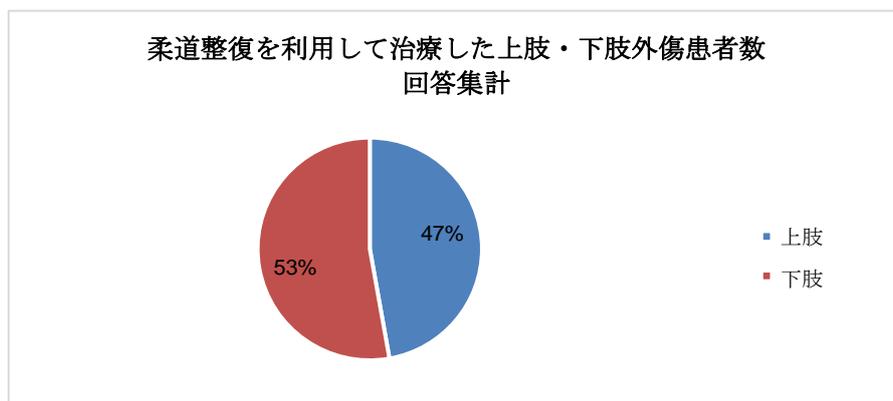
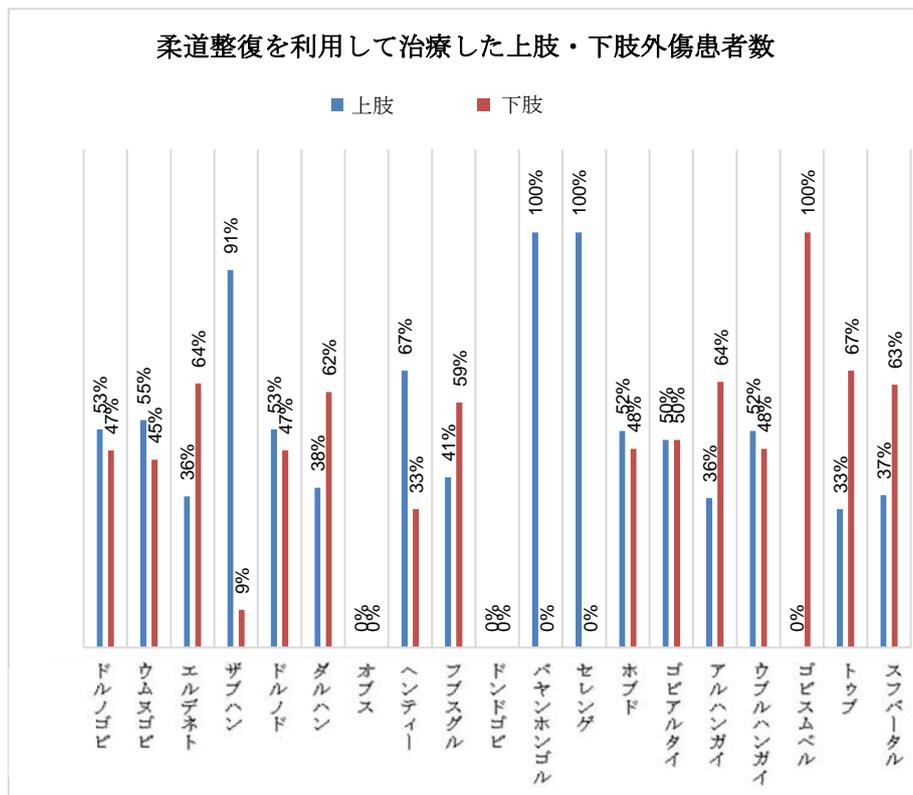


今年、来院した外傷患者数を症状により区分してみると、40%が骨折、31%が軟部組織損傷、29%が関節脱臼であった。

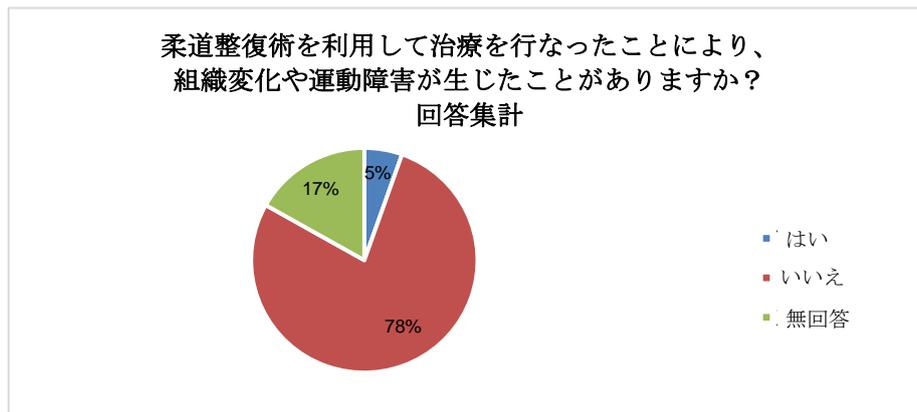
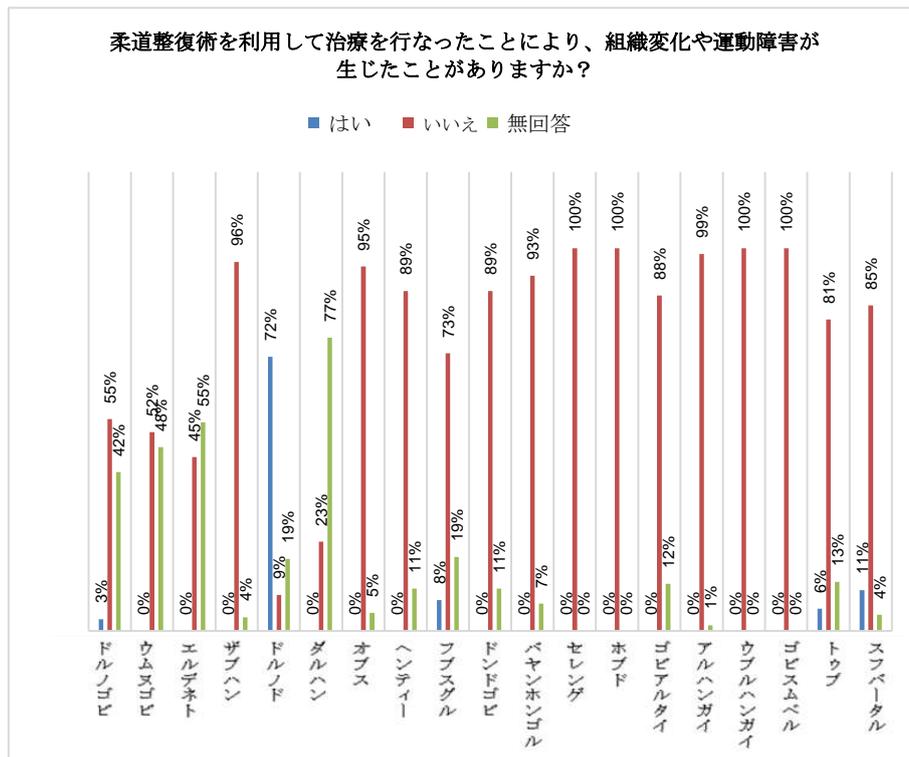


今年、柔道整復を利用して治療したケースは何件あったかという質問に対し、48%が0人、35%が1～5名、17%が5～10名という結果であった。

これを見ると、治療を行っていないという答えが多かったが、新しく普及しつつある治療法であること、また研修には参加したものの実習時間数が不十分であることなどが原因でこうした結果になったのであろうか。一方で、52%が件数の多少に拘わらず治療を実施したという結果は、本プロジェクトの成果の一部であると言える。



柔道整復術を利用して治療した上肢・下肢外傷の発生件数を区分してみると、下肢が **53%**、上肢が **47%**だった。下肢の外傷が上肢よりも多いことが分かる。



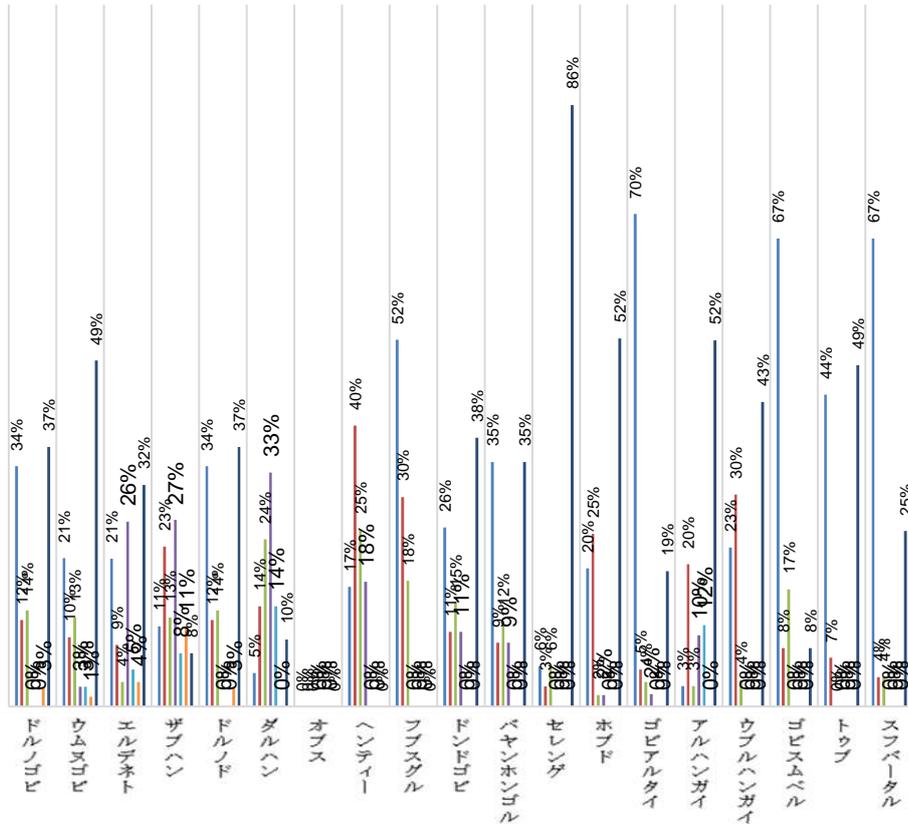
柔道整復術を利用して治療を行ったことにより、組織変化や運動障害が生じたことがあるかという質問に対し、5%が「はい」、78%が「いいえ」と回答した。17%は無回答である。

この結果から、治療の殆どのケースで組織変化や運動障害が生じていないことは、本プロジェクトの大きな成果と言えるだろう。

また、5%が組織変化や運動障害が生じたと答えているが、能力向上のための研修を継続的に行い、知識と技能を常にレベルアップさせていく必要があることが分かる。

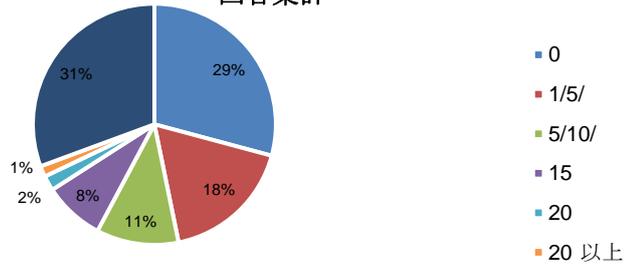
柔道整復を行わずに他の病院を紹介したのは何件ですか？

■ 0 ■ 1/5/ ■ 5/10/ ■ 15 ■ 20 ■ 20 以上 ■ 無回答

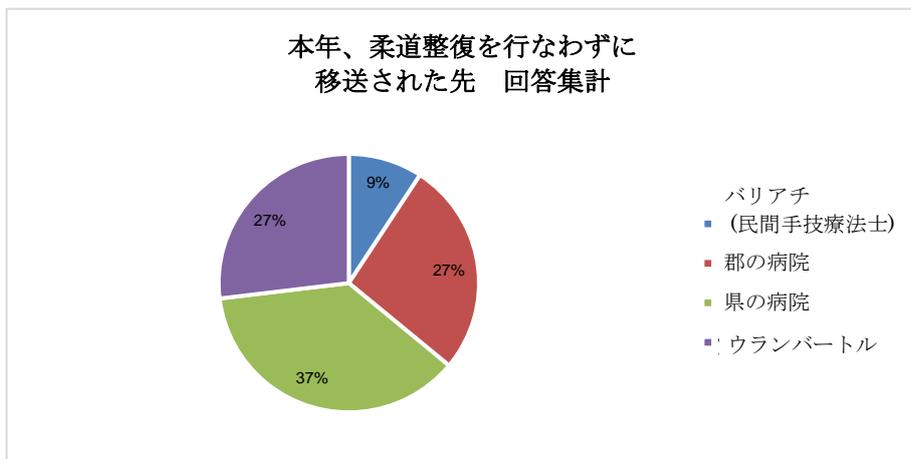
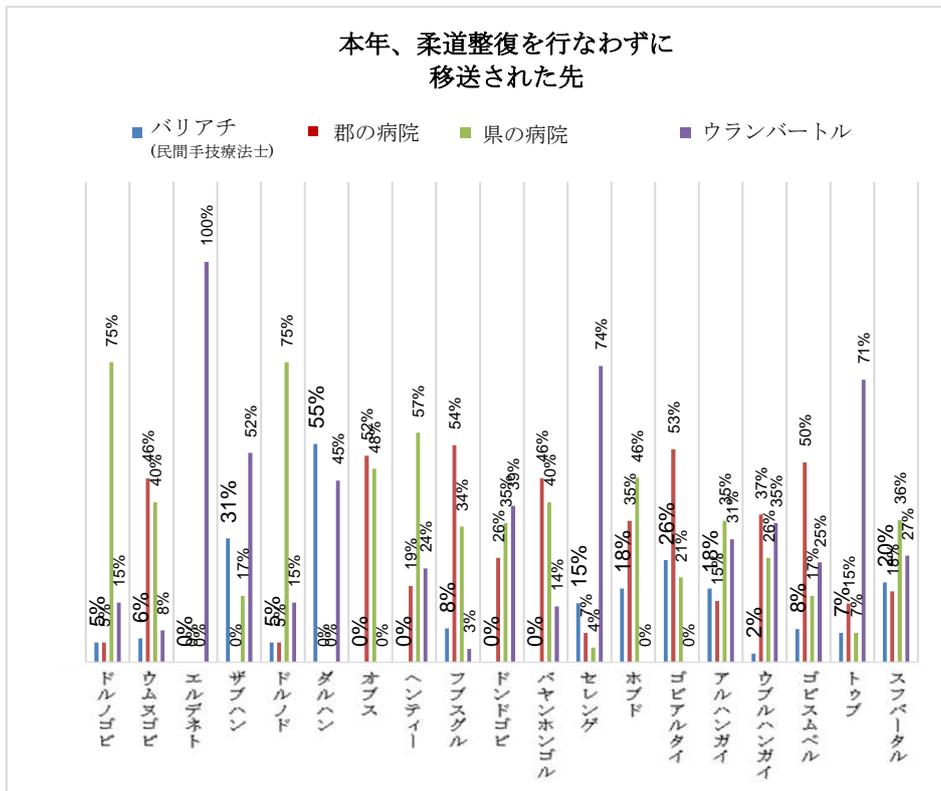


柔道整復を行わずに他の病院を紹介したのは何件ですか？

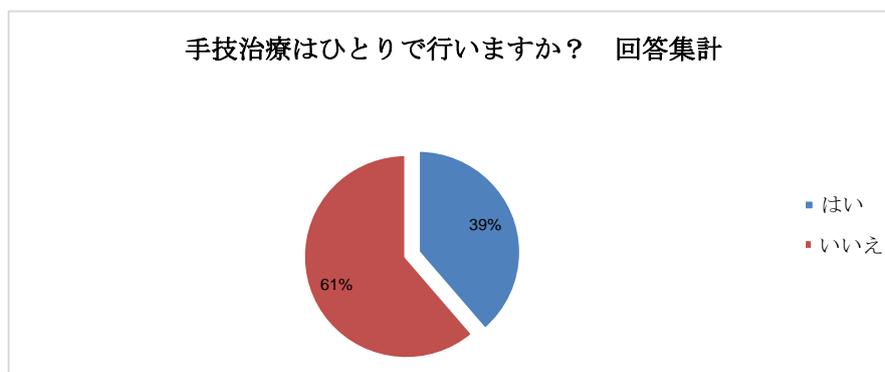
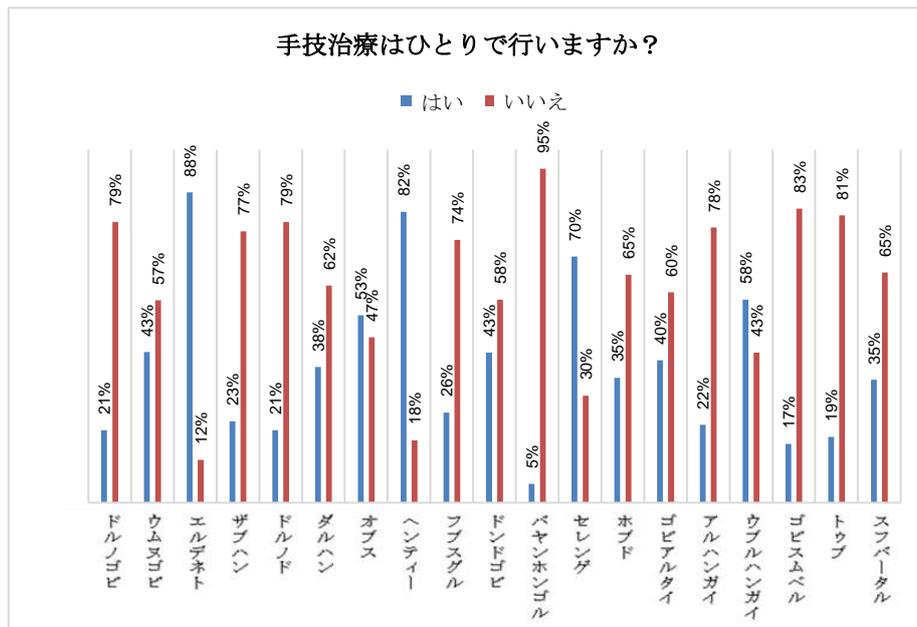
回答集計



柔道整復を行わずに他の病院を紹介したのは何件かという質問に対し、29%が0件、18%が1～5件、11%が5～10件、8%が15件、2%が20件、1%が20件以上、31%が無回答だった。

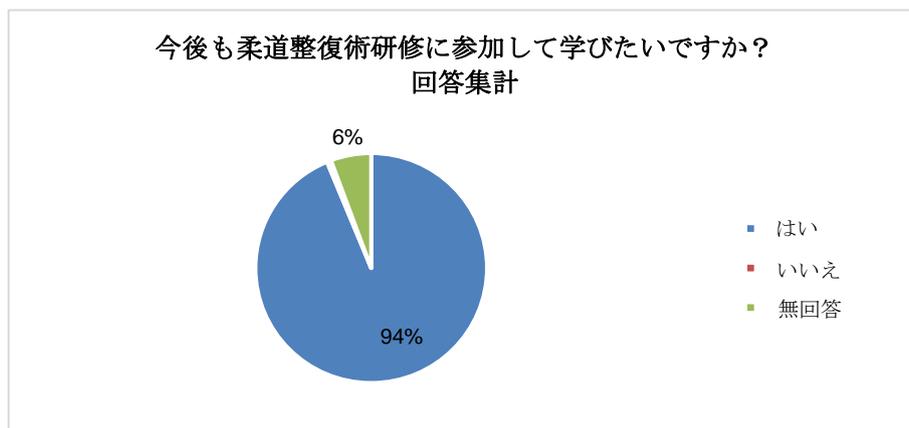
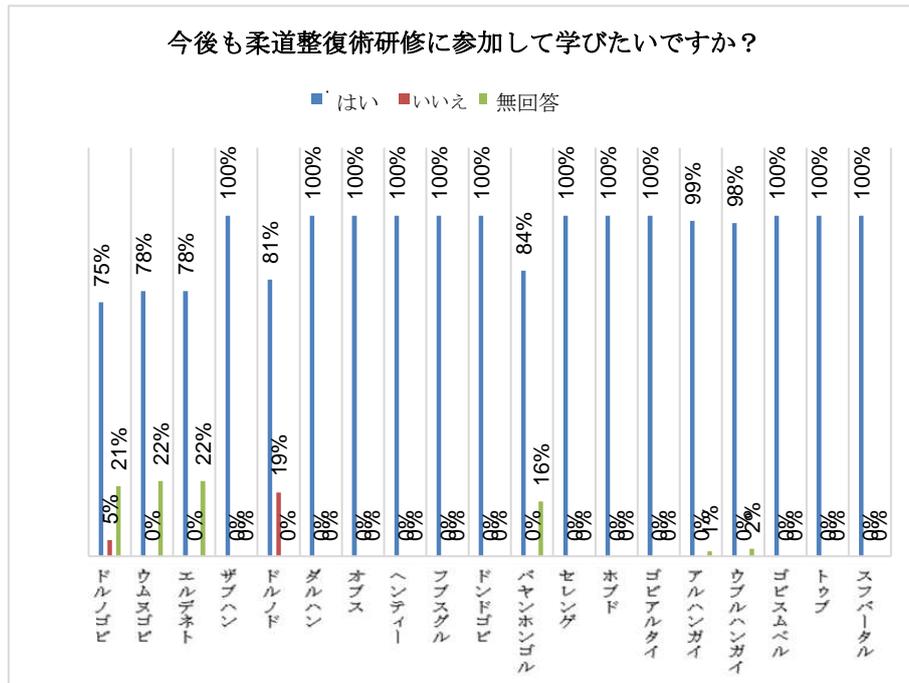


本年、柔道整復を行わずに移送された先についての質問に対し、**27%**がウランバートル、**27%**が郡の病院、**37%**が県の病院、**9%**がバリアチ（民間手技療法士）と答えた。これをみると、当該の居住地により何処へ移送されるかが関係していることが分かる。但し、**9%**がバリアチ（民間手技療法士）に移送したと答えており、これは留意すべき課題である。



手技治療はひとりで行ないますかという質問に対し、39%が「いいえ」、61%が「はい」と答えた。誰かの補助のもとで手技治療を行っているケースが多数である。一方、ひとりで行っていると答えているケースも少なからず見られる。特に、地方部のバグにおいてはひとりで行うほかにはない状況が生じることは確かである。

これに関連して我々の研修では、ケガに対してひとりで行う手技治療や固定を行う手法を指導したが、これが多少なりとも成果に繋がっていることが分かる。



今後も柔道整復術研修に参加して学びたいかという質問に対し、**94%**が「はい」、**0%**が「いいえ」と回答し、**6%**が無回答だった。

無回答の理由は不明だが、**94%**が今後も学びたいと希望している。これは継続して学び、より深く専門性を習得する必要性があることを示している。